

性の評価

資料3-2 原子力バックエンド対策専門部会報告書案に対する意見募集について

資料4 遠藤原子力委員の海外出張について

資料5 日本原燃(株)の六ヶ所再処理工場の工事進捗状況について

資料6 45回原子力委員会定例会議議事録(案)

6. 審議事項

(1) 平成13年度原子力関係予算ヒアリングについて(放射能調査研究費)

標記の件について、防災環境対策室より資料1に基づき説明があった。これに対し、関係省庁において実施する環境放射能の調査研究の結果を取りまとめたり、関係省庁が相互に情報交換ができるような機関があるのか。また、調査結果を国民にどのような形で提供し、国民が情報を知りたい場合にはどこに聞けばいいのか。

(防災環境対策室)ご指摘の点については、いろいろ改善を図っているところである。調査研究に参加している関係者が年に一度集まり、調査研究発表会を開くと同時に、その結果について冊子にまとめている。さらに、(財)日本分析センターにおいて、調査研究結果についてデータベース化することにより、一般の方々にもインターネットを通じてアクセスして頂けるよう準備中である。なお、データベースについては、一般の方が見やすい形にするよう留意したい。

平成13年度の放射能調査研究費予算要求について、金額は調整中とのことであるが、調査項目は平成12年度と同じと考えてよいのか。

(防災環境対策室)前年度予算額がゼロとなっている気象研究所の調査事項(1)項から(3)項が新規の課題である。なお、(4)項及び(5)項は、平成12年度で終了する予定である。

米国の原子力軍艦に対する放射能調査については、三省庁にまたがっているが、どのような役割分担になっているのか。

(防災環境対策室)科学技術庁は、常設のモニタリングポストあるいはモニタリングポイントによる放射線量の測定を、海上保安庁は、モニタリングボートを所有しており原子力軍艦の周囲を回って海水や海底土を採取するなどしている。さらに水産庁は、湾内あるいは近海の高産物を採取し放射能測定を行っており、それぞれの得意分野のところで協力を行っている。

大変地道な活動を行っていると思うが、携わっている人達のモラルをどのようにして高く維持していくかが重要である。

等の委員の意見及び質疑応答があった。

(2) 「大強度陽子加速器施設計画評価報告書(案)」の意見募集について

標記の件について、大強度陽子加速器施設計画評価専門部会の末松部長及び研究技術課より資料2-1、2-2及び2-3に基づき説明があった。これに対し、

予算について優先順位をつけるとは、具体的にどういったことか。

(研究技術課) 施設の建設に関して優先順位をつけるということである。加速器施設のうち、400 MeV リニアック、3 GeV シンクロトロン及び50 GeV シンクロトロン等を最優先で建設すべき施設と位置付け第Ⅰ期計画としている。したがって、日本原子力研究所の分担では加速器駆動変換実験施設を、高エネルギー加速器研究機構の分担ではニュートリノを利用する実験施設をそれぞれ第Ⅱ期計画とした。

(末松部会長) 予算に応じて全体の性能を落とすのではなく、個々の施設自体は計画通りの性能を持ったものを順番に建設していき、最終的には全体として計画通りの施設を完成させ、その代わり完成までに時間を要してもやむを得ないと考えた。

一般の方にはなかなか理解するのが難しい計画であり、認知度も低いと思う。一方、評価結果では夢のあるプロジェクトと位置付けており、その意味で一般の方と共有できる夢である必要があり、どれだけ夢があるものなのかももう少しわかり易く説明できないか。

(末松部会長) 部会の審議においてもそのような意見があった。世界最先端施設の一つであり、細胞の構造が詳細にわかること等を積極的にPRしていきたいと考えている。世界的に見て規模がどうであるかよりも、この施設を使って人類のために何ができるのが重要。

(研究技術課) 例えば、本施設を使った中性子利用研究では、難病の克服に役立つたんばく質の構造解明が従来の施設を使うよりも飛躍的に短時間で可能となること等を、比較的わかり易い成果と考えている。

加速器を使った研究は手作りの世界がまだ残っており、科学者が本能に挑戦するような世界的にも隠してやりたいものと、公開性の中でパブリックコメントを求めるような全容を見せなければならない世界が共存しており、科学技術の社会性という観点からも関心のあるところ。

本計画は、あくまでチャンピオンデータをとることを目的に、性能を落とさず順次建設することが計画されたと理解している。

このような大規模施設については、ニックネームを考えてはどうか。

(審議官) 施設が完成したらニックネームを公募するのも一案。等の委員の意見及び質疑応答があり、本評価報告書(案)について意見募集を実施することについて、了承された。

(3) 「我が国における高レベル放射性廃棄物地層処分研究開発の技術的信頼性の評価(案)」の意見募集について

標記の件について、廃棄物政策課より資料3-1及び3-2に基づき説明があった。これに対し、

意見募集の期間が、前の議題の「大強度陽子加速器施設計画評価報告書(案)」に関する意見募集の期間と異なっているのは意味があるのか。

(原子力調査室) 原子力委員会が行う意見募集について特に規定があるわけではないが、

通常1ヶ月を平均として実施されている。先程の大強度加速器に関する意見募集については、できれば来年度の予算要求に合わせた形で報告書(案)を取りまとめたという事情から、1ヶ月をきる期間となっておりむしろ例外的である。

地層処分については、委員会としても見解を明らかにしたい。地層処分とは、自然の特性と人工の科学技術を一緒にしてうまくバランスをとってやっていくもの。自然という意味では、ガボン共和国で発見された天然原子炉を通じて、地層処分の対象としている放射性核種の中には移行がほとんど見られないものがあるという知見を持っており、これが地層処分において自然の特性を利用する大きな動機になっていると思う。一方、人工の科学技術という点では、処分にガラスを使っている。ガラスはメソポタミア文明以来の長い伝統があり、いかに安定かが分かっている。これら2つを合わせたやり方は地球の歴史を見込んだ良い方法だと思う。

天然原子炉は同時に放射性物質の核変換を行っていたともいえる。分離変換技術を処分の中心におくことは重要であり、可能性も十分あると思う。

一方、直接処分と再処理後の処分の考え方について、ある程度棲み分けがされており、直接処分の方は再取り出しを前提にした米国の考え方がある。再処理後の廃棄物については再取り出しを前提としてこなかったが、最近の欧州はその中間であり、議論がある。意見募集においてどのような意見がよせられるか関心を持っている。

意見募集を行った場合、まだまだ初歩的なご意見が多く出され、それらをどのように処理するかにエネルギーを使うことになると思う。パブリックコメントにおいて何ができ、出された意見をどう反映していけるのか重要な課題である。いずれにせよ、多くの方からご意見を頂けるのは良いこと。

等の委員の意見及び質疑応答があり、本評価(案)について意見募集を実施することについて、了承された。

(4) 遠藤委員の海外出張について

標記の件について、国際協力・保障措置課より資料4に基づき説明があり、遠藤委員の海外出張に関して了承された。

(5) 日本原燃(株)の六ヶ所再処理工場の工事進捗状況報告

標記の件について、原子力調査室より資料5に基づき説明があった。これに対し、

再処理施設のスケールの大きさは、建設現場でないと感じ取れない部分もあり、原子力委員全員一緒になく、個別でもよいので視察に行くべき。

等の委員の意見及び質疑応答があった。

(6) 議事録の確認

事務局作成の資料6の第45回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。